

偶然の出会いから育まれた、

学校での出会いは、多分に偶然に支配されます。偶然の中にある貴重な出会いを大切にしたい！



1983年、宮崎県立高等学校教諭となり、13年間、宮崎大宮高等学校の教壇に立つ(専門は国語)。以後、宮崎西高等学校校長兼宮崎西高等学校附属中学校長、県教育庁副教育長などを歴任し、2021年4月より現職。先生時代に、生徒から親しみをこめて呼ばれていた愛称は「クロジュン(黒・淳)」。

宮崎医科大学(現:宮崎大学医学部)卒業。2003年、日本人女性初・最年少でFACC(アメリカ心臓病学会特別会員)に選出される。2006年、日本からの研究では初となる、アメリカ心臓病学会のYIA賞受賞。出産を機に宮崎へUターン。2021年4月より現職(機能制御学講座循環動態生理学分野)。

宮崎県教育委員会 教育長
黒木 淳一郎 さん

宮崎大学医学部 教授・医学博士
渡邊 望 さん

黒木 先生、生徒、先輩や後輩にしても、そのときの出会い・環境は多分に偶然に支配されています。人生において大きな意味を持つ、貴重な出会いも、たくさん含まれているはず。ですから、10代の読者のみなさんには、それらの偶然の出会いを大切にもらえればと強く思います。

黒木 先生、生徒、先輩や後輩にしても、そのときの出会い・環境は多分に偶然に支配されています。人生において大きな意味を持つ、貴重な出会いも、たくさん含まれているはず。ですから、10代の読者のみなさんには、それらの偶然の出会いを大切にもらえればと強く思います。

渡邊 利他の心ということ言えば、残念ながら、最近自分になんの利があるか、ということに判断基準に動く人が多い気がします。一見、誰かのために動いているようにも、実はそれは自分の承認欲求を満たすためだったり……。利他的な心だつたり、無償の愛、信頼というものは、きつと自分自身がそれらを与えられて体験しないとわからないし、循環もしていないものだと思うんです。そういう意味では、子どもたちにとって家庭をのぞくと、学校はとも大きな場ですね。大人になって気づきますけど(笑)、中学、高校の1年間は人生に大きな影響を及ぼすかもしれない、とても貴重な時間。その時期に、先生に担任を受け持ってもらえたというのは、本当に、私にとっては神さまからのプレゼントだったと言いますか。少し、ホメ過ぎでしょうか?(笑)。

黒木 いやいや。ただ、このときの生徒は自分のためではなく、みんなのため、まわりのために行動する。「利他の心」を持った生徒が多いクラスでもありましたね。

渡邊 利他の心ということ言えば、残念ながら、最近自分になんの利があるか、ということに判断基準に動く人が多い気がします。一見、誰かのために動いているようにも、実はそれは自分の承認欲求を満たすためだったり……。利他的な心だつたり、無償の愛、信頼というものは、きつと自分自身がそれらを与えられて体験しないとわからないし、循環もしていないものだと思うんです。そういう意味では、子どもたちにとって家庭をのぞくと、学校はとも大きな場ですね。大人になって気づきますけど(笑)、中学、高校の1年間は人生に大きな影響を及ぼすかもしれない、とても貴重な時間。その時期に、先生に担任を受け持ってもらえたというのは、本当に、私にとっては神さまからのプレゼントだったと言いますか。少し、ホメ過ぎでしょうか?(笑)。

黒木 いやいや。ただ、このときの生徒は自分のためではなく、みんなのため、まわりのために行動する。「利他の心」を持った生徒が多いクラスでもありましたね。

渡邊 利他の心ということ言えば、残念ながら、最近自分になんの利があるか、ということに判断基準に動く人が多い気がします。一見、誰かのために動いているようにも、実はそれは自分の承認欲求を満たすためだったり……。利他的な心だつたり、無償の愛、信頼というものは、きつと自分自身がそれらを与えられて体験しないとわからないし、循環もしていないものだと思うんです。そういう意味では、子どもたちにとって家庭をのぞくと、学校はとも大きな場ですね。大人になって気づきますけど(笑)、中学、高校の1年間は人生に大きな影響を及ぼすかもしれない、とても貴重な時間。その時期に、先生に担任を受け持ってもらえたというのは、本当に、私にとっては神さまからのプレゼントだったと言いますか。少し、ホメ過ぎでしょうか?(笑)。

黒木 いやいや。ただ、このときの生徒は自分のためではなく、みんなのため、まわりのために行動する。「利他の心」を持った生徒が多いクラスでもありましたね。

渡邊 利他の心ということ言えば、残念ながら、最近自分になんの利があるか、ということに判断基準に動く人が多い気がします。一見、誰かのために動いているようにも、実はそれは自分の承認欲求を満たすためだったり……。利他的な心だつたり、無償の愛、信頼というものは、きつと自分自身がそれらを与えられて体験しないとわからないし、循環もしていないものだと思うんです。そういう意味では、子どもたちにとって家庭をのぞくと、学校はとも大きな場ですね。大人になって気づきますけど(笑)、中学、高校の1年間は人生に大きな影響を及ぼすかもしれない、とても貴重な時間。その時期に、先生に担任を受け持ってもらえたというのは、本当に、私にとっては神さまからのプレゼントだったと言いますか。少し、ホメ過ぎでしょうか?(笑)。

黒木 いやいや。ただ、このときの生徒は自分のためではなく、みんなのため、まわりのために行動する。「利他の心」を持った生徒が多いクラスでもありましたね。

渡邊 利他の心ということ言えば、残念ながら、最近自分になんの利があるか、ということに判断基準に動く人が多い気がします。一見、誰かのために動いているようにも、実はそれは自分の承認欲求を満たすためだったり……。利他的な心だつたり、無償の愛、信頼というものは、きつと自分自身がそれらを与えられて体験しないとわからないし、循環もしていないものだと思うんです。そういう意味では、子どもたちにとって家庭をのぞくと、学校はとも大きな場ですね。大人になって気づきますけど(笑)、中学、高校の1年間は人生に大きな影響を及ぼすかもしれない、とても貴重な時間。その時期に、先生に担任を受け持ってもらえたというのは、本当に、私にとっては神さまからのプレゼントだったと言いますか。少し、ホメ過ぎでしょうか?(笑)。

黒木 いやいや。ただ、このときの生徒は自分のためではなく、みんなのため、まわりのために行動する。「利他の心」を持った生徒が多いクラスでもありましたね。

渡邊 利他の心ということ言えば、残念ながら、最近自分になんの利があるか、ということに判断基準に動く人が多い気がします。一見、誰かのために動いているようにも、実はそれは自分の承認欲求を満たすためだったり……。利他的な心だつたり、無償の愛、信頼というものは、きつと自分自身がそれらを与えられて体験しないとわからないし、循環もしていないものだと思うんです。そういう意味では、子どもたちにとって家庭をのぞくと、学校はとも大きな場ですね。大人になって気づきますけど(笑)、中学、高校の1年間は人生に大きな影響を及ぼすかもしれない、とても貴重な時間。その時期に、先生に担任を受け持ってもらえたというのは、本当に、私にとっては神さまからのプレゼントだったと言いますか。少し、ホメ過ぎでしょうか?(笑)。

黒木 いやいや。ただ、このときの生徒は自分のためではなく、みんなのため、まわりのために行動する。「利他の心」を持った生徒が多いクラスでもありましたね。

渡邊 利他の心ということ言えば、残念ながら、最近自分になんの利があるか、ということに判断基準に動く人が多い気がします。一見、誰かのために動いているようにも、実はそれは自分の承認欲求を満たすためだったり……。利他的な心だつたり、無償の愛、信頼というものは、きつと自分自身がそれらを与えられて体験しないとわからないし、循環もしていないものだと思うんです。そういう意味では、子どもたちにとって家庭をのぞくと、学校はとも大きな場ですね。大人になって気づきますけど(笑)、中学、高校の1年間は人生に大きな影響を及ぼすかもしれない、とても貴重な時間。その時期に、先生に担任を受け持ってもらえたというのは、本当に、私にとっては神さまからのプレゼントだったと言いますか。少し、ホメ過ぎでしょうか?(笑)。

先生と生徒の「幸せのかたち」

出会いは34年前の宮崎大宮高校。ともに過ごした期間は、わずか1年。けれど、「デンジャラス」なクラスで起こった、さまざまなハプニングやアクシデント、そして先生や友人と過ごした濃密な1年間は、その後の進路や価値観に大きな影響を与えるほどでした。偶然の出会いから紡がれた、幸せな関係——ある先生と生徒の物語の始まりです!

自分たちで成長していく 「デンジャラス」なクラス

— おふたりは渡邊教授が宮崎大宮高校2年生のときの担任と生徒という関係でいらつしやいますか、当時のクラスはどのような雰囲気だったのでしょうか?

黒木 淳一郎さん(以下、敬称略) 彼女のクラスの担任を受け持ったのは元号が昭和から平成に変わる年、1989年のことです。34年も前のことになりましたが、いまでもとても強く印象に残っています。いろんなハプニングやアクシデントもありましたが(笑)、自分たちで歩いていくと言いますが、いろんな出来事を糧に自分たちで成長していくクラスでした。

渡邊 望さん(以下、敬称略) うちのクラスは、理系としては珍しく全46人中15人しか男の子がいなかったというのも特長のひとつですが、普段からみんな仲が良く、いざというときにはとてもないパワーを発揮するクラスでした。でも、クラスのことをひとりで表すとすれば……、とても「デンジャラス」なクラスでしょうか(笑)。

黒木 彼女が中心になってつくってくれたクラスの文集があるのですが、そのタイトルもズバリ『伝説羅漢』です(笑)。

子どもに対する大人の対応について考えさせられる、ある絵本

諭すべきは諭した上で、寛容に受け止める。先生方の大きな懐の中で、青春を謳歌しました!

読んだときに、とても衝撃を受けたのですが、あらかじめ要約すると、ある日ばんやさんに預かっていて、ばんやさんがひとりではいってしまおうと怒るのには、私も、1度こんな大きなばんやを焼いてみたかったんだよと寛容に受け止めて、最終的には街の人にばんやを配って、みんなに喜んでもらうんだ。

このお話は当時の先生と、生徒だった私たちとの関係性にも通ずるものがあるのではないかと思います。生徒がやったことに對し、もちろん、諭すべきときはきちんと諭した上で、寛容に受け止めて、かつ大人の責任として、ちゃんと落としどころをつけてあげる。そういう大きな懐の中で、私たちは高校生活を送らせてもらえていたんだということ、いまになってとても強く実感します。

黒木 いやいや、それは本当に生徒たちに育てられているという側面が大きいです。実際、文集の『伝説羅漢』には生徒からのメッセージで「この1年で一番成長したのは先生だ」と書かれています(笑)。

ホームルーム発表の準備中に起こった「明日」事件?

渡邊 ヒドイ話ですね(笑)。もう時効かと思うので(笑)、たくさん起こったアクシデントの中から、当時のエピソードをひとつ紹介しようと考えているのですが、先生、教室を「かぐや姫の世界」にしたのを覚えていらつしやいますか?

黒木 文化祭の一環でホームルーム発表とい





先生はやりがいのある、本当にいい仕事です。 柔軟に、自分の足でしっかりと歩んでください！

渡邊教授の気持ちを動かした 教育長からの助言とは？

— 教育長は担任をされていた当時、渡邊教授の進路を大きく左右する、貴重なアドバイスもされたそうですね？

黒木 高校生のときの彼女はとても優秀で、とくに英語の成績は群を抜いていました。部活では弓道部の主軸として活躍していましたし、まさに文武両道を地でいく生徒でした。ご実家が医院をされていたのですが、進路を決める際、自分の得意な英語の道に進むのか、それとも医学の道を選ぶのか。葛藤しているのが、ありありと見てとれたんです。

それで家庭訪問のときに「大人の敷いたレールの上を歩くのは嫌だ」と思っているかもしれないけど、お父さんの背中を見て育っているし、きっと将来はいいお医者さんになると思う」ということ、「英語はお医者さんになってからも活用できるけど、英語の道に進んだらお医者さんにはなれないかもしれないよ」という主旨の話をして……。

渡邊 「たまには、大人の話を素直に聞いてみるのも悪くないかもしれないぞ」って。なんだか煙に巻かれた気もしたんですが(笑)、不思議とストンと腑に落ちたと言いますか、心に入ってきたんです。結果、いま宮崎にいなが得意な英語を活かして、アメリカやヨーロッパのお仕事もしていますし、先生の言われた通りになっていて(笑)。

— そんなおふたりが、今後お仕事でもコラボされる予定はありますか？

渡邊 宮崎県が掲げるスローガン『目指せ、健康長寿日本一の宮崎県』を、宮崎大学が医学・工学・農学連携で全学的にバックアップするプロジェクトがあるのですが、その一環で県内の小中学校や高校にうかがい、さまざまな啓発・教育のためのイベントを行う予定です。先生や教育委員会のみなさまのお力をお借りして。

黒木 小中学生や高校生のみなさんは、普段の生活では、なかなか医学部の教授と接する機会もないでしょうから、ぜひこの機会に交流し、健康に関する学びを深めてもらえたらうれしいですね。

先生ほど、子どもたちの人生に 大きな影響を与えられる仕事はない！

— 「将来、教育の道に進みたい」と考えている本誌読者に、メッセージをお願いします！

黒木 まず、いま先生という職業は大変というイメージがあるかと思うのですが、それでも先生をめぐらせてくれている学生さん、そして彼らに先生をめぐらすきっかけとなった体験や知見を与えてくださった方々に、感謝を申し上げます。先生は、本当にやりがいのある、とてもいい仕事です。

ただ、もしかすると、先生になってみて「ちょっと違うかもしれない。合わないかもしれない」と感じる人もいるのではないかと思います。そういった事態に直面した場合には、つぎのステップに進むという選択肢を視野に入れてみていいのではないかと、私は考えています。そして、違う道に進んで「やっぱり、先生が……」と思ったら、ぜひまた戻ってきてください。

1度決めたことは、なにがなんでもやり通さなくてはいけない。いまはそういう時代でもありませんし、仮に回り道をしたとしても、それは必要な回り道であり、きっと将来の礎のひとつにもなる回り道だと思います。柔軟に、自分の足でしっかりと歩んでくださることを期待しています。

渡邊 自分自身の体験、またいち保護者の立場から考えても、先生ほど子どもたちの人生に影響を与えられる仕事はないですし、本当にすばらしい職業だと思います。きっと教員をめぐらす学生さんは、先生からいい影響を受けた人でしょうから、もしなにかで立ち止まったときには、その源となった体験を思い返してみてください。

そして、利他的な心や無償の愛、信頼などと同じように、今度はみなさんが次代を支える人たちにいい影響、循環が受け継がれていくような機会や体験を与えてくれるといいなと思います。夢に向かって突き進む、みなさんのことを応援しています！

Memorial photo



高校2年生最後の日に、サプライズで黒木先生にプレゼントを。クラスを代表して、渡邊さんが花束等を手渡しました(うしろ向きの女子学生)



渡邊さんが中心となってまとめた、2年E級の学級文集『伝説羅果』(デンジャラス)。ヴィジュアル面も含め、渡邊さんがプロデュース



渡邊さんは、高校時代は弓道部に所属。副キャプテンとしてチームをけん引しました。大学でも弓道を続け、さまざまな賞を獲得



子どもがアクシデントを起こした際の大人の寛容さ、対応について考えさせられる絵本『マフィンおばさんのぱんや』(福音館書店)



立ち止まったときは原体験を思い返し、
次代へ続く好循環をつないでいってほしいですね！